

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永興 啓

春に植える花の栽培

経営上の特性

春に播種（種まき）や挿し芽をしたり、苗・球根を植え付けたりする花卉の多くは、夏から秋にかけて出荷するものがほとんどです。

この時期に生育させる場合、穏やかな気候の下、とても楽に栽培ができる可能性があります。

ただし、花卉をスムーズに栽培できるといふことは、直売所で商品が余るといふ心配も抱えているため注意が必要です。

(1) グラジオラス

普通栽培では、4〜5月にかけて露地に順次植え付け、7〜8月に開花します。植え付けてから開花まで100日程度です。茎が倒れて曲がりやすいため、必ずフラーネットを張りましょう。

(2) ベニバナ

気温が10度以上であれば年中栽培できますが、高温時は花が貧弱な姿になるため、4月に播種し、



7月上旬までに開花させる栽培が無難です。

(3) ヒマワリ

播種から開花までの期間が短いものも多く、高温時は最短45日で開花する品種もあります。寒い時期に開花させることも可能ですが、無難に6月ごろからの開花を狙います。



(4) 小ギク

8月開花の小ギクは、3月下旬から4月上旬に挿し芽をします。

この時期は、まだ気温・地温が低いいため、ハウスや電熱線などを活用しての育苗をおすすめします。

(5) アスター

播種は、ハウスやトンネルで3月下旬から4月にかけて行い、約1カ月後に畑に定植します。その場合、切り花出荷は7月下旬から8月上旬になります。

(6) カンパニュラ・メデイウム

鐘状の花が、6月頃に多数開花する二年草です。播種は5月ですが、開花は翌年の6〜7月になります。栽培期間がとて長いというのが短所ですが、夏に好まれる花卉です。

問い合わせ

農業振興課 農業振興係
0824・73・1131

庄原が好き



専門農家として西城町で苗やホウレンソウを生産している下宮直城さん(左)と長男の大和さん

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新魅力を発見すること、人を、まちを、もっと好きになりますように。

人とのつながり

地域の人はみんな知り合いで、お互いに助け合いながら生活しています。地域全体が大きな家族のような感じですよ。1月号で紹介されていた田盛将也さんは、農業の後輩であり、一緒に野球や釣りをする仲間でもあります。農業について話したり、お互いの農場を見学して参考にしたりしています。

10代のころに「家族で代々受け継がれてきた農業を自分の仕事にする」と志した下宮直城さん。現在、約50品目の苗やホウレンソウを生産・出荷している下宮さんから話を聞きました。

農業とやりがい

進路を農業に決めて、庄原実業高校から県立農業技術大学校へ進学し、先代の後を継いで農家になりました。自然相手の仕事なので、気温や天候に左右されます。梅雨は、時期や期間、雨量が毎年異なり、同じ年はありません。大変ですが、毎日自然を感じられることがとても楽しいです。

3月から5月は繁忙期で休みはとれません。それ以外は自分で調整して休めることも魅力です。土日を休みにし、家族で息子の高校野球の応援へ行くことを楽しみにしています。

農業を始めて24年経ちましたが、作物や季節によって栽培方法、気を付けることが異なるため、1年に1回しか経験を積みません。まだ未熟だと思うと同時に、この経験や知識はとても貴重なものだと思います。

自分が学んできたこと、受け継いできたことを途切れさせないよう、いずれは次の世代に伝えられたらと思っています。



SNSの投稿募集中
「#庄原が好き」
で投稿!



投稿を
チェック

問い合わせ

自治定住課定住推進係
0824・73・1257